



令和5年6月7日

福生市 定例記者会見資料

資料 3-1



～東京都「乳幼児「子育て」応援プログラム推進事業」に応募～

東京大学「^{セデッブ}CEDEP」と連携し、すべての乳幼児の「探究」を支援する幼保共通プログラムを推進します！

福生市では、令和5年度に東京都が実施する「こども未来アクション」のリーディングプロジェクトの1つである「乳幼児「子育て」応援プログラム推進事業」に応募することを決定しました。

日々の遊びの中で無意識に「探究」を積み重ねながら成長する子どもたち。東京大学の研究機関「CEDEP」との連携のもと、保育所や幼稚園といった施設類型の垣根を越え、子どもたちが多彩な体験に触れ合うことのできる共通プログラムを推進します。

■時代に合わせ「量」から「質」へと保育政策をシフトチェンジ

当市は、積極的な保育所整備等の対策により、早い時期から「待機児童ゼロ」を達成してきました。また、市内の幼児教育・保育施設における保育の質は、以前行われた慶應義塾大学 SFC 研究所による研究で、他自治体等と比較し高いことが検証されています。

一方で、近年では都内全体で待機児童問題の解消や、全国で保育所等における事故や不適切保育が後を絶たず、これまで各自治体が力を入れてきた保育の「量」の競争は、徐々に「質」の競争に移行してきています。

福生市では、さらなる保育の質の向上を目指し、今後も多様な担い手や専門家等との連携を積極的に推進するなどの施策を展開し、保育政策を「質」にシフトチェンジしていきます。

■「乳幼児「子育て」応援プログラム推進事業」とは

令和5年1月に東京都が発表した「こども未来アクション」のリーディングプロジェクトのひとつで、保育所や幼稚園といった施設類型の垣根を越え、子どもたちが多彩な体験に触れ合うことのできる共通プログラムを推進する事業です。この共通プログラムを実践して、幼児教育・保育の充実を図る保育所等（実践協力園）に対し、技術的・財政的な支援をすることで、意欲・自己肯定感・社会性等の非認知能力の育成に資するよう、子どもたちの主体的な「探究」とそのプロセスの質を向上させることが本事業の目的です。

令和5年度については、実践協力園におけるβ版プログラム（さらなる改善を行うための初版）の実践を予定しており、これに協力することができる連携自治体を東京都が募集していました。



令和5年6月7日

福生市 定例記者会見資料

資料 3-1

■東京大学「CEDEP」について

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（The Center for Early Childhood Development, Education, and Policy Research）。

保育の質の向上を実現するため、国内外の研究機関や保育園・幼稚園の各団体、民間企業など、幅広い連携のもとで総合的な研究を推進している研究機関です。

■幼児教育・保育施設に対する支援

共通プログラムの実施にあたり、実践協力園の環境や強みを活かしながら、各園が選択したテーマ（自然・芸術等）に沿って探究活動を行います。「CEDEP」は、そのための具体的な活動内容に関する事前協議や研修の実施、あるいは助言等により支援します。また、東京都が実践協力園に対し財政的な支援を行います。

■福生市の実践協力園

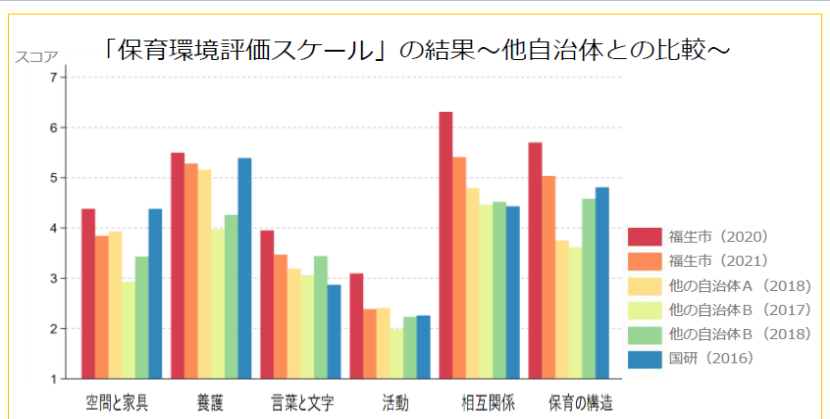
東京都から連携自治体に選定された際は、すみれ保育園、聖愛幼稚園、若葉保育園、福生杉ノ子保育園、ありんこ保育園の市内5施設が本事業を実施する予定です。

■スケジュールについて

- ・ 令和5年6月 連携自治体決定
- ・ 令和5年7月 「CEDEP」と実践協力園の調整・研修
- ・ 令和5年9月 β版プログラム実践（～11月）
- ・ 令和6年3月 実践報告会・完成版プログラムの策定

福生市の保育の「質」は？

慶應義塾大学 SFC 研究所が「保育環境評価スケール」（ECERS：エカーズ）を用いて福生市内の幼児教育・保育施設を評価したところ、福生市の保育の質は、他の自治体などと比較して、全ての項目において高い結果が出ています。



「東京都教育委員会指定『就学前教育と小学校教育の一層の充実に関する研究指定地区事業』研究発表リーフレット」（令和5年1月 福生市教育委員会）より引用

【問合せ】 子ども育成課 保育・幼稚園係 ☎042-551-1780